10月1日　イントロダクション　　Copyright：Takumin

代議士は国民の代表者であるが彼らは一体何を代表しているのか。これが自明ではない。例えば国民の意思とは何か？どこにあるのか？どのように表示するのか？といった問題にぶつかる。ルソーの考えに基づけば我々が代議士に我々の意思を代表してもらうことは不可能だと主張している。だからすべての国民が立法過程に参加せねばならないと主張し、それが唯一の正当な政治制度だと考えた。近代国家においては代議制、あるいは間接民主制を導入せざるを得ないが、ロジックのレベルでそれが正当化されるか否かを考えればならず、そうでないなら我々は騙されていることになる。国民の意思は何か？どこにあるか？というのは考えれば考えるほどわからなくなるが、重要なのはそれをどのように認識するのか、それとも客観的に存在しないということにするのかということである。

我々はなぜ法律に従うのか？我々はある程度法に従うべきだと思っているのではないか。例えばヤクザに恐喝された場合殆どの人は財布を出すが、ヤクザが五百メートル離れた所から金を出せと言われれば、おそらく逃げるだろう。それはなぜか、おそらく後者の方が恐怖が少ないからであろう。では、税金を納めることと前者の違いは何か。それは義務感を感じているかどうかである。我々はある種の命令について守る義務があると感じることがあるが、それはどこから来るのだろうか。今日的なスタンダードな答えはそれが自己支配を可能にするからである。要するに政治というのは支配と服従の関係からなるものであるが、なぜ自分が権力に従わなければならないか説明せねばならないが、デモグラシーの原理では自分の考えに従っているからということになる。同様に代議士に従うのは代議士が自分の意思を代弁するためである。では、自分以外にも人がいる場合、我々の意思をなぜある代議士が代表することができるのか。私の意志と他の人の意志は異なるかもしれないのに代議士に代表してもらえるのか、それが国民の意思となるのならば国民の意思とは何であろうか。このように難しい問題が生じることになる。

整理すると第一に代表とは何か、何を代表しているのか、国民の意思とは何か。もう一つがデモグラシーの問題である。これが唯一の正統性の原理であるといわれているが、そのデモグラシーの原理をいったん認めてもそこからどのように制度化するのか。それが今学期の大きな問題テーマである。デモクラシーはいいがそれをどのように具体的に表現するのかを深く探求するとデモクラシーが今日危機に直面しているということが明らかになる。二年前、福岡で世界政治学会が開催されたが、その時の共通テーマが民主主義は機能しているかであった。その問いに対してイエスと答えた人は一人もいない。とにかく色々と問題をはらんでいるということになる。ただし、危機にもいろいろあってどういう危機に我々が直面しているかについては様々な意見がある。ただ、一つ言えることはナショナルデモグラシーが機能不全に陥っているという点では意見が広く共有されている。なぜなら政治家が国民の意思を代表しているかということに対して多くの人は代表していないと答える。選挙で選んでいるので形式的には代表しているはずだが、投票率などから鑑みればマジョリティーの支持を得ているとは限らない。ところがそれらの人が代議士になり、法律を作る。日本ではそれほど問題となっていないが、ヨーロッパでは問題となっている。国民の中には代議士に自分の考えを代表することができないと考える国民が増えてきている。

代表するとは何を意味するのか？A が B を代表するということが何を意味するか。B がいることを前提にして考える。では B が存在するとは何を意味するのか？つまりそれが客観的な存在かどうか？一つの解釈は B が存在するという考え方。本当に存在するものを A が知覚化するという発想。B はどのようにして認識可能かが次の問題になる。プラトンのロジックでは B は真の存在であり、哲学者のみがそれを認識できる。故に哲学者能見が代表でき、哲学者だけが政治家（支配者）になれることになる。もう一つのモデルは現象界とプラトン的な現実界がほぼ一致するというもの。たとえばここにあるものはほぼ本物を反映しているだろうというもので、その場合は現象をひたすら表現すれば心理を認識できるというもので、皆でその探求ができると考えるので、比較的デモクラシー的になる。プラトンモデル、アリストテレスモデルを紹介したが、もう一つある。それは今度説明するが、B がない、つまり現象界はあるが真の世界（真理）はないというもの。ここにある全ての事象は自分の頭の中で展開しているにすぎないという発想である。しかし、一つはこの世界は客観的に存在しようがしまいが重視することには変わりはない。もう一つは A が B を作り出すという発想。B が国民の意思だと仮定すると、A が国会で B を作り出すという考え方がある。このようなモデルを提唱したのがホッブスである。
A が B を代表していると我々が感じることによって義務感が生じるが、そのプロセスや因果関係に注目することも今回の授業で重要なことである。代表を説明する際、合理的な説明と非合理的な説明が用いられ、それらが融合する。その二つの要素を考えなければならない。余政治現象を理解するためにはこの講義では代表性という概念に着目しながら合理的作用と非合理的作用について観察していく。